

夏だ！海だ！ 磯遊びがだ〜！！

夏の小磯に出かけたら、とりあえず海のなかにジャブジャブ入ってみよう！

近所の友人たちと、釣り大会を定期的に開催している。まあ、大会といってもビール片手に楽しく休日を過ごすという軽いノリなので、夏の大会などは家族ぐるみで楽しむことも多い。そして、こういったシチュエーションで子供たちが一番やりたがるのは、もうダントツに「磯遊び」なのである。服がびしょ濡れになるのもかまわず、潮だまりや磯の浅瀬を縦横無尽に遊び回る。子供って、無邪気でいいなあ……。しかし実際には、それを見ていた奥さん連中も一緒になって磯モン（30ページ参照）採りに夢中になり、さらには、釣りに熱中していたはずのオヤジたちも、いつのまにやら子供の箱メガネを奪い取ってタイドプールの中でジャブジャブやることになる。海から生まれた人間が持つ、揺るぎないDNA。予想もつかない発見や驚きを体験できる磯遊びは、現代人の遠い記憶を目覚めさせてくれるアウトドアレジャーの真打ちだったのだ！

小さな潮だまりでも、無数の生き物が見つかるぞ！

ここで、磯遊びについて簡単に定義してみると、我が家的にいえば「とにかく、海の中にジャブジャブ入ってみよう」だ。ところがどっこい、夏の臨海学校などでやってくる都会の小学生を見ていると、絶対に海水に足を浸そうとはしない（引率の先生に禁じられているのか？）。これは海に限らず、川でもそうだと思うのだが、とにかくいまの子供たちは水遊びと切り離された教育をされているようだ。そのくせ、スイミングスクールは大盛況なのだとか……。

【タイドプール】

磯遊びに適しているのは、内湾に面した波静かな小磯。そこに、潮が引いたあとに岩のくぼみにできるタイドプール（潮だまり）があれば、さらに理想だ。基本的に、潮が大きく引く大潮〜中潮の干潮時にタイドプールがでやす〜、磯遊びには絶好だろう。



干潮で大きく潮の引いた磯場では、さまざまな生き物たちと出会うことができる。大人も子供も、夢中になれる時間を過ごせることだろう



生き物を捕まえて観察するのも楽しい。図鑑では学べないことが吸収できる



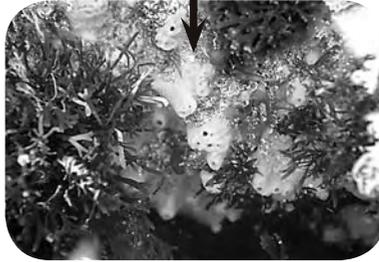
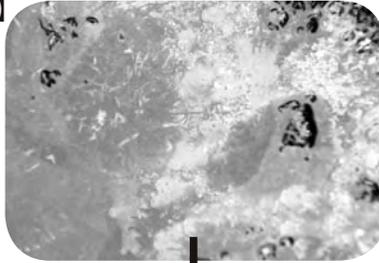
磯ぎわで観察するだけでも十分に楽しいが、条件が許せば実際に海の中にジャブジャブ入ってみよう。その驚きは10倍になるはずだ



観察が終わったら、できるだけ静かにもとの海に帰してあげよう！

【箱メガネがあれば磯は10倍楽しくなる!】

海の中の生き物を観察するときに、“箱メガネ”があると楽しさは10倍になる。水面の照り返しでぼんやりとしか見えなかった生き物が、箱メガネのガラス面を海面に当ててのぞくだけで、ビックリするほどクッキリ見えるのだ(右写真)。箱メガネは1,000円ほどで買えるが、100円ショップの水槽でも代用可能だ



まあ、そんなことは置いておいて、本書を手にして頂いたみなさんには、ぜひ、磯の魅力を感じて欲しい。

磯遊びに適した磯は、ガンガンと波が打ち寄せるような荒磯ではなく、内湾に面した静かな小磯。それも、潮だまりがあるような場所なら最高だ。ほんの小さな洗面器ほどの潮だまりにも、無数の生き物を発見してビックリすることだろう。また、潮だまりがなくても、磯ぎわの浅瀬に転がっている小さな石をひっくり返すだけで、さまざまな生き物と対面できる。カニやウニ、ヒトデなど比較的ポピュラーなものから、得体の知れない生命体?まで、驚きと発見の連続になること間違いなしだ(観察が終わったら、そっと元通りに直してあげよう)。

磯で遊ぶ場合、あれこれと道具を持ち込まないほうが自由に歩き回れて楽しい。しかし、徐々に磯遊びに慣れてくると、どうしても欲しいものが出てくるものだ。その双壁が、箱メガネと手網。箱メガネを使うと、海の中がまるで水族館のようにクッキリと見えるようになるし、何かの生き物を捕まえるには、やっぱり手頃な網があると絶対に楽しいのだ。さらにステップアップすれば、磯ガネやモリなどがあると魚や貝も収穫できるようになる。

なお、平穩に見える小磯でも、突然うねりが押し寄せたり、浮き石に乗れば滑ったり転倒する危険もある。ウニやクラゲなどに刺されて痛い思いをすることだってあるだろう。慎重になりすぎるのもつまらないが、ぐれぐれも最低限の危機管理は忘れないように!

磯を遊び尽くすための必須アイテム

【スタイル】

水着だけで遊んでいる人も多いが、強烈な日射対策として、つばつきの帽子は必須。過度の日焼けを防止するために、Tシャツなどの上着も着用したほうがいだろう。クツは普通のビーチサンダルより、カカトのあるスポーツサンダルのほうが脱げにくい。さらに安全を考えるなら、マリンシューズと呼ばれるメッシュ地のクツをオススメする



我が家のもっぱら素手派だが、ケガを用心するなら軍手をしよう



これがマリンシューズ。価格は海の近くのショップで1,000円ほど

【遊び道具】

磯ぎわの遊びに慣れてきたら、今度は道具を持参するのもいい。手網、モリ、バケツ、箱メガネ、磯ガネなどがあれば、磯遊びがもっと楽しくなる。ほかに、ビニール袋やペットボトル、タオル、レジャーシートなどを用意していくと、何かと役に立つはずだ



【100円水槽も大活躍!】

磯の生き物を観察するのなら、小型の水槽も持参しよう。容器に半分ほどの海水を入れて、採取した生き物や海藻などを入れれば、即席の水族館として楽しめる。磯に持っていきながら、100円ショップで売っている小型の水槽が便利だ





ケヤリムシ



オレンジカイメン



イシガニ



ムラサキウニ



タツノオトシゴ



ホソツノモエビ



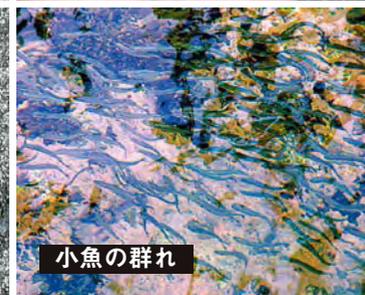
アカテガニ



フナムシ



カゴガキダイ



小魚の群れ



ギンカクラゲ



タマキビガイ



磯ぎわで
出える
生き物たち



クロナマコ



イソスジエビ



タイドプールで
出える
生き物たち



オヤビッチャ



イソギンチャク



アメフラシ



マツバガイ



ヤツデヒトデ



アオリイカ



イワガニ



クロカイメン



ヤドカリ



ナベカ

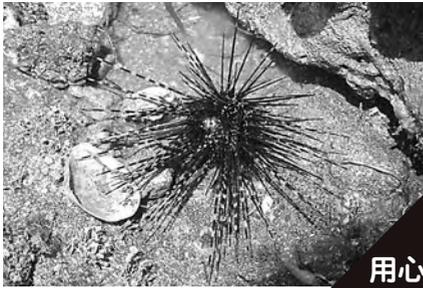


チョウチョウウオ

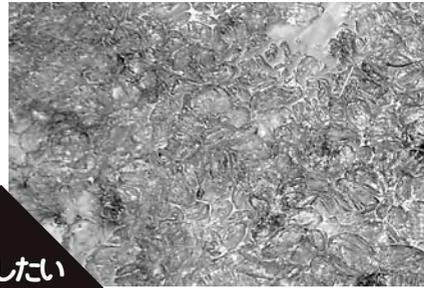


マダコ

ガンガゼ／ウニの一種で長いトゲの先端に毒腺がある。刺されると猛烈に痛く、呼吸困難を起こすこともあるので、絶対に触らないようにしたい



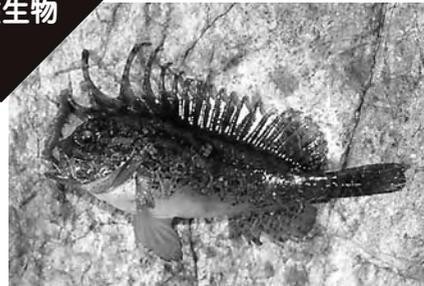
カソノエボシ／いわゆる“電気クラゲ”。毎年、土用過ぎに海水浴場などに出現する。触手に触れると、赤くミズ腫れ状態になる



用心したい
危険生物



ゴンズイ／岩礁帯やタイドプールなどで見られる魚。ヒレに毒針を持ち、刺されると3日は痛い思いをする。死骸でも毒があるので注意!



ハオコゼ／岩礁帯に棲息。一見、赤くてかわいい小魚だが、ヒレには強烈な毒針がある。これに刺された嫁さんは「夜も寝れなかった」とか……

海遊びノート……デジカメで水中写真

海遊びの記録として、ちょっとチャレンジしてみたいのが“水中写真”。以前は、機材をそろえるだけでも大変だったが、いまでは超軽量のデジタルカメラと水中撮影用のハウジングが手ごろな価格で入手できる。これを利用しない手はないのだ。

水中写真を成功させるコツは、空が晴れた明るい条件で、水深の浅い場所で撮影すること。また、海が澄んでいることも絶対条件だ。さらに、撮影時にはカメラと被写体をピントの合う範囲内でできるだけ近づけて接写することで、海中の浮遊物も映りにくくなる。これらによって、スッキリと抜けのいい水中写真が撮れるはずだ。



水中写真用のハウジングは一万円ほどで買える。デジカメなら失敗も怖くない!?

磯遊びを楽しむ4つのポイント



【磯を上手に歩くためのコツ】

磯の岩はゴツゴツして歩きにくい。海藻が付着して滑りやすくなっている。ここはやっぱり、ビーチサンではなくしっかりしたマリンシューズを履くのが無難だろう。磯歩きは慣れればどうということはないが、最初は浮き石や海藻のついた石を避け、できるだけ乾燥した岩場を伝って歩くのが安全だ

【小石をひっくり返してみよう】

「磯遊びって、何をやればいいんだ?」とか言っている人は、とりあえず、磯ぎわに転がっている小石をひっくり返してみることをオススメする。その下側には、カニやウニ、ヤドカリ、ウミウシ、イソギンチャクなど、無数の生き物が息づいている。この小さな感激から、磯遊びは始まるのだ



【潮だまりでは“3分間”待つのだ】

ダイドプールに潜む生き物たちは、意外とデリケート。人間が近寄るとすぐさま岩陰に身を隠してしまう。しかし、ここであきらめずに3～5分ほどじっと待っていると、そのうち生き物たちがワンサカと顔を出してくれるのだ。「こんなにいたの!」と、ビックリすること間違いなしだ

【捕まえて、触ってみよう!】

磯の生き物たちは、観察するだけでも楽しいが、それを実際に採取して手で触ってみるとまた別の発見がある。手の中であごめくヒトデ、何とも言えぬ触感のアメフラシ、意外とすばしいヤドカリ……。図鑑や水族館で見ただけでは絶対にわからないことを、だれしも簡単に体感できるのが磯遊びなのだ



夏休みは「無人島」を遊び尽くそう！

航路のある無人島で、「プチ・サバイバル」を楽しむ

「無人島」と聞いて、無条件にドキドキするのは私だけじゃないだろう。子供の頃、「十五少年漂流記」や「ロビンソンクルーソー」をむさぼり読み、いつの日にか無人島で暮らしてみたいという無謀な夢を抱いていたのも、私だけじゃないはずだ。ところが、時の流れはいつしか少年の夢を奪い去り、大人はその夢を忘れたフリをする……。

しかし、本格的なロビンソンクルーソーにならずとも、プチ無人島遊びは結構イージーに体験できる。私自身、新婚旅行では沖縄の無人島に嫁を連れて行って響慶を買ったこともあるが、実際には嫁も案外楽しんでたようだった（気のせいかな?）。

ナイフ一本とマッチだけ持って出かけてみよう！

無人島遊びの出発点は、まず、そこに渡るための航路探しから始まる。もともと、無人島に渡りたいというニーズは結構あるようで、とくに瀬戸内海や九州・沖縄方面などでは、夏のキャンプシーズンに合わせて定期船を出しているエリアもある。くわしくは、地元観光協会や漁協などに問い合わせよう。このとき、島に渡る場合の諸注意や飲料水の有無なども確認しておいたほうがいい。

無人島へ出かけるときの準備だが、この旅が日常生活からの一時的な脱出と考えれば、必要最小限の道具だけをそろえればいいと思う。極論すれば、ナイフ一本とマッチだけあればいい。そして、米と塩（鍋があれば塩作りも可能Ⅱ122ページ）を持って、あとはすべて現地調達



私の新婚旅行先は、沖縄の無人島だった。一応、 TENT と寝袋を持参して、新妻のご機嫌を損ねないようにしたが……

都会育ちの妻にとっては、強烈な体験だったと思う。しかし、いまでは房総の田舎で海暮らしを存分に楽しんでいる



【ナイフ】

あなたは、野外に出かけるとき、迷わず手にできる一本のナイフを持っているだろうか？ 地震、津波、洪水、土砂崩れ……。世界規模で災害が発生している昨今、いざというときに役立つナイフは、いまこそ必要な時代になっているのかも知れない。



無人島で一日を過ごす……

【水と食糧の確保】

飲み水が確保できる無人島もあるが、基本はポリタンクでの持ち込み。食料は米と塩など最低限のものを持参し、あとは魚や海藻を現地調達してみたい。寝床はキャンプ場があればそこを利用し、なければ砂浜で雑魚寝だ（満潮時の潮位は要チェック）



やっぱり、釣り道具を持っていくと魚の調達には至極便利なのだ



食材は現地調達してこそ、無人島サバイバルの醍醐味を味わえる!



【サバイバル料理】

まずは、流木を集めて火を起こそう。夏の炎天下なら、大きめの虫メガネで着火させることもできる。収穫した海の幸は、ナイフで削った串に刺して焼く。もちろん、鍋を持参していけば米も炊けるし、海水で貝やカニをゆでたり、海藻スープなどを作ることもできる。食器は、海岸に転がっている貝殻を使うのが気分だ



【タプリの時間を贅沢に使おう！】

さあ、ライフラインを確保したら、あとはタプリの時間を使って自由に遊ぼう! ここは無人島、何をやっても怒られない。島内探検、磯遊び、ゴロ寝、読書、昼からビールを飲んでもいいだろう。ただし、たとえ無人島でもハメを外しすぎないように。最低限のルールは守り、後かたづけも忘れずに!



する。これが、無人島サバイバルの王道スタイルだ。

もつとも、そこまでのシビアさを求めないなら、缶詰やラーメンなどの非常食、鍋とフライパン、海の幸を獲るための釣り道具や磯ガネなどもあると便利だし、よりディーブに楽しめると思う。いざというときのために、サバイバル・キットや携帯電話（圏外かも知れないが）も持参しよう。さらに必要なものがあれば、あとは現地調達にチャレンジしてみればいい。磯場で魚やカニなどを捕り、浜辺では食べられる海藻を摘む。食器は大きめの貝殻で代用し、箸は流木をナイフで削って作ろう。石を組んでカマドを作り、フカフカの砂浜はそのまま心地よい寝床になる。レジャーシートを一枚持参すれば、それを簡易テントにすることもできるはずだ。

無人島で一番気になるのは飲料水だが、こればかりは海水から蒸留するのは難しい。ちよつと重いが、これはポリタンクで持参するのが無難だろう。量は、一日一人で2リットルは必要。ただし、料理をするときには、目の前に大量にある海水も活用してみたい。貝や海藻は海水でゆでるとおいしいし、米は海水で研いでから真水で炊く。我が家のプチキャンプでは、パスタを海水と真水を混ぜたお湯でゆでるが、これなら水も節約できるし味もよくなるのだ。

いまでは、こうした無人島体験をカリキュラムとして採り入れている学校も増えつつあり、旅行会社でも無人島ツアーが意外と人気とか。この夏は、ぜひ、無人島にでかけてみよう!

海遊びノート……サバイバル・キット

突然、無人島で暮らすことになったとき（そんなこと、普通はないと思うが）、必要とされる最低限のアイテムをそろえたのがサバイバル・キットだ。市販されているキットには、ナイフ、防水マッチ、小型ライト、ラジオ、ソーイングセット、ファーストエイドキット、コンパス、ホイッスル、浄水剤、手袋、ロープ、アルミシート（身体を包んで寝袋として使える）、釣り具などが含まれていることが多い。もちろん、自分なりに取舍選択してもいいだろう。

これらは、いざというときの防災グッズにもなってくれるので、日常から常備しておくのもいいかもしれない。



こうしたサバイバル・キットに非常食や飲料水を追加すれば、災害時にも役立つ

幻想的な光に大感動。「海ほたる」を観察する

子供にも大人にも、最高の記憶に残ること間違いなしだ！

その青白い光は、名の通り、ホタルのそれを彷彿とさせるものだった……。

私が初めて「海ほたる」見たのは、千葉県館山市にある安房博物館で行われている観察会でのこと。かねてより、あの光は絶対に見てみるべきだと知人から力説されていたので、ある夏の夜、家族を連れて出かけてみたのだ。はたして、その知人の言葉は本当だった。年甲斐もなく感動した。もちろん、子供たちは大はしゃぎで、観察会の時間を過ぎて海ほたるの入ったバケツから離れようとしな。それにしても、この光の秘密はいったい何なんだろう？

きれいな海だから見られる、夜の海の宝石……

海ほたるを明るい場所で見ると、透明なゴマ粒みたいだった。この小さな生き物が何らかの刺激を受けて発光性の体液を排出すると、あの不思議な光が発生するのだ。雑食性のため、観察会の当日も、魚のアラをストックングに詰めたものを、コーヒの空き瓶（フタに穴を開けてある）に入れ、海に沈めて海ほたるを採取していた。

いちおう、全国各地に海ほたるは棲息しているそうだが、水質汚染や開発などで、その数は減少しているとのこと。観察会のボランティアたちも、「いつまでも、海ほたるが光輝く海であるように、みんなで一緒にきれいな海を守っていきたい」と語っていた。私自身は釣りを通して環境問題をとらえることも多いが、この海ほたるの幻想的な光を見れば、本気になって自然環境を考えることができると思う。



幻想的な光を放つ“海ほたる”。初めてみたとき、大人の私でさえも感動した。もちろん、子供たちも大はしゃぎ。いつまでも、こんな感動が手軽に体験できる海であることを願う

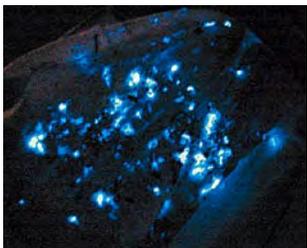
海ほたるの採取方法



空き瓶のフタに釘などで10箇所ほどの穴をあけ、中にちぎったソーセージや魚のアラを入れて海に投入。1時間後に引き上げてみよう！



バケツの海水に放った海ほたるに、ちょっとした振動を与えると見事に光輝く。知らない人が見たら、ビックリすること間違いなしだ。観察が終わったら、静かに海に逃がしてあげよう



【海ほたる】
よく夜光虫に間違われることが多いが、夜光虫は原生動物で、海ほたるは貝ミジンコの仲間。青森県から沖縄までの太平洋側で見ることが出来る。体長は最大で3cm前後、夜行性で昼間は砂の中に潜っている。

狩猟の血が騒ぐ!?!正しい「モリ」の使い方

これを安全に使いこなせれば、磯遊びは100倍楽しくなる!

先日、テレビを見ていた息子が突然叫んだ。

「もうちゃん、これ、やってみたい!」。

画面を見てみると、某サバイバル番組で芸能人がモリで魚を突いているシーン。幼心にも狩猟の血が騒いでいるのだろうか……。そういえば私が子供の頃も、親父が近所の池で竹銛モリを使って巨大なライギョを突いたのを見て、全身に鳥肌が立つぐらいに興奮したことを覚えている。

ちょっと危険な匂いもする手モリではあるが、これは漁業調整規則でもちゃんと認められている狩猟道具。太古の昔から、脈々と受け継がれてきた狩人の必須アイテムなのである（我が家の近所では、コンビニでも売られているが……）。

突きんぼで捕った魚は、なぜだかおいしいのだ

友人の突きんぼ（モリで魚を捕ること）の名手・Sさんの口癖は「海暮らししてるんだったら、手モリぐらい使えないとつまらないぞ」。私自身は釣りが専門なので、実際のところ魚突きにあまり興味はなかった。しかし、近所の磯にちょっと出かけては、いつも簡単に巨大なクロダイやメバルなどを突いてくるSさんには、いつも舌を巻いていたことも確かだ。そして、一発必中で仕留めた魚はうまい具合に血抜きもされて、食味のほうもかなりいけるのである。

そんなSさんによれば、突きんぼのコツは、とにかく魚に静かに接近して、モリの切っ先を至近距離まで近づけて突くというもの。確かに理にかなってはいるが、実際はどうなのか？



手モリですばしっこいカワハギを突けるようになれば一人前だ。ビギナーでも突きやすいのは、ハコフグやメバルなど。ウチの息子はゴンズイ突きが得意だが、ヒレに毒があるので、一般にはあんまりオススメしない



【モリの種類について】

大別すると海用と淡水用があり、海用はモリ先にカエシのあるタイプが多い。また、モリ先の本数によって、二又、三又、七又などがある。写真の一番右のモリは、3mm径のステンレス線をヤスリで削り、スポット溶接機を使って組み合わせた自作品だ（ちょっとやりすぎ?）

【使用可能な手銛とは?】

一部地域を除いて、漁業調整規則ではモリの使用はOKとされている。ただし、水中銃のように、ゴムの発射装置が付いて手元から飛んでいくようなモリは使えない場所が多い。コンビニで売っているモリにもゴムはついていて、柄が手元から離れない限りは問題なさそうだ。



正しいモリの使い方

【モリの柄は順手に持つのが正解！】

はじめてモリで魚を突こうとすると、柄を逆手に持つ人が多いようだ。しかし、これだと腕の回転運動によって、どうしても真っ直ぐに突きにくい。モリは、下の写真のように順手に持つのが正解なのだ



NG!

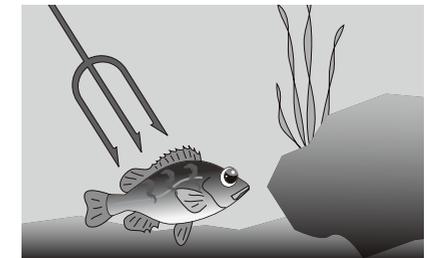
柄を逆手に持つと、どうしてもまっすぐ突きにくくなるのだ



柄に装着してあるゴムの反動を利用すると突きの速度がアップする

【至近距離で突く！】

魚突きの流れは、「近づいて、突いて、押し込む」が基本。まずは、箱メガネや水中マスクなどを活用して、静かに獲物にアプローチしよう。獲物を発見したら、モリ先をできるだけ近づけて至近距離で突くのが最大のコツ。また、モリ先にカエシがない場合は、きっちりと押し込みをして、獲物に逃げられることを防ごう！



至近距離まで切っ先を近づけるのが、最大のポイント。突く寸前まで魚は意外と逃げないのだ

最初はコンズイでも、突けると超ワレシイ。目標は巨大なクロダイだ！



子供でも楽しめる究極の磯遊び？

生まれて初めてモリを手にして興奮している息子。まだ、水に潜ることはできないので、タイドプールで魚を探してみる。すると、早くも何かを発見しようだ。Sさんに教えられたように、ゆっくりアプローチ。モリ先を静かにターゲットに近づけていく……。グサッ！

「とったと〜っ!!!」

マジかよ？ 見ると確かに獲物をゲットしている。魚はヒレに毒のあるゴンズイだったが、その白身のおいしさを知っている息子は大喜び。なるほど、これなら子供でも楽しめるなあ。これに味を占めて以来、息子たちの磯遊びには手モリが必須アイテムに加わったのだ。

実際、モリがあると磯遊びは格段に楽しくなると思う。魚突きは残酷だという方に無理にオススメはしないが、女の子だってモリを持つと目が輝いてくることも事実。私自身も、最近川のアユを突くようになったが、これが実際にやってみるとかなり熱くなるのだ。まあ、大人になってから突きんばにハマるよりも、子供のうちから体験をさせておくほうが健全だとは思っている。

なお、言うまでもないかも知れないが、モリは使い方を間違えば凶器にもなる。周囲の安全に気を配ることはもちろん、夢中になると自分の足を突いてしまうこともあるので十分に注意したい。

海遊びノート……スノーケリングに挑戦！

海をさらにディープに遊ぶなら、スノーケリングにチャレンジするのもいいだろう。これなら、海での行動範囲はずいぶん広がってくる。必要なのは、スノーケル、水中マスク、フィンの三点セット。ただし、我が家のように子供がまだ小さい場合は、フィンは付けずにライフジャケット着用で水中をのぞかせるだけでも、磯遊びの世界がガラリと変わるようだ。

なお、どんなに泳ぎに慣れた人でも、払い出しの潮に流されたり、足がつったりといった危険が伴う遊びであることは間違いない。準備運動や装備のチェック、周囲の状況管理は忘れずに。



スノーケリングを安全に楽しむなら、スクールで基礎を学ぶことをオススメする

磯エビを採取して、激ウマえびせんを焼く

知っておくと絶対に楽しい、「磯エビ捕り」の極秘テクニク

釣りのエサとしてよく使われるボサエビは、タイドプールなどでもよく見られる「イソスジエビ」のことである。魚たちにとっては大の好物なのだが、これを人間が食べても、もちろんおいしい。84ページのよう鬼殻揚げにすると、ウチの子供たちなどはアツという間に食べ尽くしてしまうほどだ。そして、さらに我が家で好評なのが「えびせん」。おいしく作るにはちょっとしたコツが必要だが、ジュツッ！と焼き上げたときの何ともいえない香ばしさは、大人でも十分にそえられるものがある。冷たいビールが欲しくなるのは、私だけじゃないだろう。

この激ウマえびせんを作るためには、新鮮なエビを入手しなければならぬ。鮮魚店にいは買えないことはないが、すでに本書を手にとっている皆さんなら、もうすでに自分で採取したい気分になっていることと思う。ここでは、私と息子たちで発見した磯エビ捕りのシークレックト（ちと大げさか？）をご紹介します！

コツさえわかれば、すばやい動きのエビも簡単に捕まえられるぞ！

まず重要なのが、エビを採取するための網。昼間のエビは岩の割れ目や陰に隠れているので、そこを狙うには当然、網の枠は小さいほうが使いやすい。釣具屋やコンビニなどで売っている手網でも使えなくはないが、できるだけ小さい枠（直径25cm以下）のものを選ぶ。エビ捕り網に関しては、大は小を兼ねないので。その意味で、たまたま釣具店で見かける専用のエビ網は、枠径が10cm程度でじつに使いやすい。発見したら、速攻でゲットしておきたい。また、熱帯魚

【磯エビの種類】

磯場にいるエビには、さまざまな種類がいる。なかでもポピュラーなのはイソスジエビ。体長5cmほどの美しいエビで、箱メガネで観察するだけでも楽しい。

ほかには、サラサエビやスジエビモドキなどもよく見かける。



初公開？ 磯エビ捕りの極意



1 道具選びが重要なのだ

左下がエビ捕り網、上が熱帯魚ネット、右がコンビニでも買える普通の手網だ。小さい網なら、針金製のハンガーとネットで自作もできる



2 まずはフラットな岩盤をチェック！

こうした平面の岩盤でも、エビが隠れるスリットやバンクは無数にある。網枠を岩盤面に沿わせながら静かにすくうだけでエビが捕れるのだ



3 オーバーハングも狙い目だ

こういった暗がりも、多数のエビが潜んでいる可能性大だ。静かに網を差し入れて、オーバーハングの天井側にいるエビをすくうのが正解



4 スリットは小網で勝負！

狭い場所を攻めるときは、やっぱり専用のエビ網やネットが使いやすい。こういう場所のエビは肉眼で確認できるので、一匹ずつゲットしよう！

ポイントの選び方と捕り方のコツさえ体得すれば、このように大量のエビを一網打尽にできる。なお、夜のタイドプールや岸壁などでは、よりイージーにエビを捕ることができるが、これについては次項を参考にしてみたい

